

【35】潜水橋

少々不思議な名前ですが、別に橋が潜水夫や潜水艦のように自分で水中へ潜っていくわけではありません。

河川のふだんの流れの水面スレスレに架けられた橋で、洪水時には川の水面が高く上昇するので水没してしまいます。「水没橋」という方が適切ですが、「潜水橋」、「もぐり橋」、「沈下橋」などと呼ばれています。洪水の流過を阻害する構造物ですから、現代の「河川管理施設等構造令」では原則禁止となっているのですが、例外規定もあるので、各地の河川に今なお存在しています。

経済力の無い時代には、堤防から堤防へ本格的な長大橋を架けるのは大事業でしたので数も少なく、その代わりに潜水橋が多数架けられていたのです。そう言えば、洪水時にも水没しないように高く架けられた橋（今では当然の事ですが）のことを「抜水橋（ばっすいきょう）」とわざわざ呼んだ時代もありましたが、今では死語になりました。

潜水橋には、洪水の流れを邪魔しないように高欄や駒止めなどが設けられていないので、車や人が転落するリスクがあり、事故が起きると撤去か抜水橋への架替えが話題になります。最近では潜水橋の数が減ったので希少価値が出て、四国の四万十川などで観光名所になったりしています。

設置費用が安いので発展途上国向けにと、ミャンマーの田舎に潜水橋を普及させているNPOもあります。